

池邊三山 （池邊三山） 新聞記者。文久四年二月五日肥後國生れ、明治四十五年二月二十八日歿（二公一八九二）。諱重遠、字任道、通稱吉次郎。筆名三山居士、三山生、孤憤子、峽雲子、木生、無字庵、無字庵主人、矯々生、齒齋主人、遠、鐵真會等。熊本藩士池邊吉十郎の長男。慶應義塾中退。明治二十一年『経世経論』主筆、二十六年フランスへ渡り、歸國後の二十九年『大阪朝日新聞』主筆、二十一年『東京朝日新聞』主筆、四十四年退社。

編著書、鎌田醉石著『醉石先生遺稿』全二冊（池邊吉太郎名、編、明治二十六年九月十五日自刊）、明治『維新』天政治家』（明治四十五年四月一日新潮社、再刊。昭和十八年九月八日『新潮文庫』）、『巴里通信』（木村毅編、昭和十八年五月十日大阪・全國書房）等。

文獻、池邊一郎富永健一著『池邊三山』ジャーナリストの誕生』（平成六年四月十日中央公論社「中公文庫」）等。

